

令和8年3月2日(月)
社会福祉法人豊芯会
グループホームつくしんぼう
地域連携推進会議

議事録

会議資料

<1部>

- 1、開会あいさつ
- 2、ご出席者紹介
- 3、グループホームつくしんぼうの歴史について
- 4、入居者の生活状況について
- 5、防災組織について
- 6、病気や障害について
- 7、意見交換
- 8、終了

<2部> *行政、民生委員、福祉に知見のある方が見学された 計3名

- 1、施設見学
(ショートステイ居室・交流室・K様居室)

解散

<1部>

1、開会あいさつ

定刻となり、管理者よりご出席の皆様へ御礼ならびに会議の目的についてご説明を行なう。

共同生活援助事業は事業の透明化が難しく閉鎖的となる特徴があり、報道にあるように全国的に虐待発生が多くなる傾向がある。本会議では、グループホームつくしんぼうに関係する職員と入居者の様子をお伝えしつつ、地域の皆様との繋がりを深める機会にしたい。

また、会議と施設見学は別日に設けることが定められているが、東京都居住支援係担当者に確認したところ、当日に開催しても差し支えないとの返事を受けていることを申し添えた。

2、ご出席者紹介

次に、ご出席者 11 名を順にご紹介。お一人ずつ一言頂戴した。

3、グループホームつくしんぼうの歴史について

豊芯会の前身となる活動がはじまったのが 1978 年（昭和 53 年）。

今から約 50 年前となる。当時、東京都の補助金で 4 名の居室を運営することからスタート。

大塚、新大塚、練馬区へと場所を変えながら、今は豊島区北大塚に 5 居室を構えている。

また、豊島区から精神障害者グループホーム活用型ショートステイ事業を受託しており、休息を目的とした 18 歳以上の豊島区民向けに運営している。利用者は微増ながら問い合わせ含めて年間のご利用が続いている。

4、入居者の生活状況について

ここで 3 名の入居者から順に日々の生活についてご説明をしていただく。

プライバシーの観点から詳細は伏せることとする。

（起床時間、日中活動、仕事、食事、睡眠、家事などについてもお話をしてくださった）

5、防災組織について

資料のとおり

6、病気や障害について

当事者の立場からうつ病についてお話をいただく。

約 10 年前から職場のパワハラで体調を崩され、精神科を複数受診。

現主治医から通所先と生活のアドバイスをもらえたことをきっかけに徐々に体調を整えることができるようになった。病気の特徴として日々体調の波があることと、年数がかかることもあって現在に至る。今は自立訓練施設に楽しく通えるようになったことと、某区のグループホームにて集団生活を送れるようになった。

7、意見交換

・入居者

いざ困ったこと（災害等含めて）がある時に、グループホーム職員だけでなく相談できる人が地域が増えてくるとは良い事だと思う。

・民生委員

障害をお持ちの方がどこに住んでいらっしゃるかなどの情報を手にすることがある。

しかし日頃関わり合う機会がないので、いざお一人お一人と関わることになった際にはどのように接するべきなのか分からない。知識、勉強が不足している。町会にも加入しているが、町会としても同じ気持ちだと思う。今日こうしてお話（会議）出来る機会は良かった。

グループホーム自体がまだ足りないのかどうか。障害支援区分によって受け入れる側のグループホームの判断が異なる結果、入居できない人も増えてくるんですね。

・地域関係者

グループホームを卒業されてからの生活目標なども聞いてみたい。

（入居者回答：実家近くに住みたい。ある程度、環境変化は抑えたい）

グループホームにしてもらってよかったことは何ですか。

（入居者回答買い物同行。家電とか含めて生活用品を一緒に買いに行ってくれること）

グループホームによっては空室時の募集に際して入居判断も差があるところ。

体験の有無や支援の内容まで様々と経験してきた。

・行政

滞在型グループホームもあるなか、通過型グループホームを選ばれた理由は何でしょうか。

（入居者回答：他のグループホーム体験したけど断られた。入院中にいろいろ探したけど。某区の滞在型を1泊体験した。食事がゴージャスでスタッフも熱心なところがあったが、将来自分が自立することを考えたときに通過型だと思い、つくしんぼうに決めた。

・家族

入居してから変わったと思う。実家住まいのころは、電車が遅延すると実家に戻ってきた。

他のルートを駅員に尋ねることができなかった。日用品も家族に手伝ってもらい買い揃えていたけど、グループホーム入居してからは自分でできることが増えたと思う。

・グループホーム職員

この関係性を途切れないように、防災訓練など会議ではない形でも繋がっていききたい。

自立とは全部自分一人でするものではなく、SOSを出しながら一緒に生活をしていく事も十分なことだと思っている。それは障害のある人だけではない話なので、みんなで協力し合える雰囲気と関係性を目指していきたい。

<2部>

1、施設見学 *行政、民生委員、福祉に知見のある方が見学された 計3名

ショートステイ居室・交流室・K様居室の順に見学。

それぞれ、休息、交流、一人暮らしを目的に用意されている居室について理解を深めていただけた。

16時45分 終了